

第6学年国語科学習指導案

1 単元名 表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう

『鳥獣戯画』を読む」「日本文化を発信しよう」

2 単元の目標 ◎は重点指導項目

◎引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 (思考力・判断力・表現力等B(1)ア)

○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 (思考力・判断力・表現力等C(1)ウ)

○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広がることに役立つことに気付くことができる。 (知識及び技能(3)オ)

○文章と絵や写真などの資料を結び付けて必要な情報を読み取ったり、表現を工夫して書き表したりすることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもってパンフレットを作ろうとする。「学びに向かう力、人間性等」

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広がることに役立つことに気付いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 ・「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 	文章と絵や写真などの資料を結び付けて必要な情報を読み取ったり、表現を工夫して書き表したりすることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもってパンフレットを作ろうとしている。

4 単元について

(1) 本単元で扱う教材と行う言語活動について

本単元では、『鳥獣戯画』を読む」と「日本文化を発信しよう」の2つの教材を扱う。『鳥獣戯画』を読むは、『鳥獣人物戯画』の中の蛙と兎が相撲を取る場面について、その表現の秀逸さや絵の連続性から見える面白さを説明する説明文である。筆者は、体言止めや読み手に呼びかけるなどの文末表現の工夫や、全体から細部に注目させるような説明の構成の工夫、同じ絵を2度挿入し読み手に考えさせるような資料の示し方の工夫など、多くの技法を活用し説明している。また、筆者の「評価」が多く盛り込まれているのが最大の特徴である。評価があることで、筆者がどこに注目して論を展開しているかわかりやすくなり、また、読み手の共感を誘いながら説明をすることができる。児童はこの文章を読みとることで、読み手を引き込み、そのもののすばらしさを共感してもらうための文章の工夫をはじめとした多くの工夫を学ぶことができるだろう。

その学習を受けて、「日本文化を発信しよう」の学習に取り組む。ここでは、5年生に向けて日本の文化を紹介するパンフレット作りを行う。パンフレットは、テーマについて図や写真などの資料と文章で読み手に伝えるものである。手に取ってもらえるようなわかりやすく、魅力的なものにするためには、文章に工夫をしたり、図や写真を適切に用いたり、テーマについての自分の考えや思いを入れたりする必要が

あり、本単元は、『鳥獣戯画』を読む』で学習したことを生かすのに適した言語活動だといえる。

テーマを日本の文化にするのは、6年生の学習の特徴である歴史の学習を生かすことで5年生に次年度の学習について伝えるという動機になるということと、本学級の児童が平安時代の年中行事や室町時代から続く伝統文化を調べる活動において高い意欲を示した児童が多かったことが理由である。

(2) 児童の実態について<省略>

(3) 学習を通して身につけさせたい力とその手立て

【身につけさせたい力について】

本単元は、学習指導要領の「B書くこと」における指導事項である「イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。」また、「ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。」「エ 引用したり図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。」を受けて設定している。

前述の通り、本単元は読むことで得た知識を書くことに活用しやすい単元であり、『鳥獣戯画』を読む』を読むことで文末、資料の活用の工夫や筆者の評価を説明に入れて共感を誘う工夫を学ぶことが期待される。そして日本の文化について「書くこと」を通して学んだ工夫を自分のものとすることで、魅力的な文章を書くために自分の評価を盛り込んだり、表現技法を適切に使ったりすることのできる力をつけることができると考える。また、絵や写真を用いることで説明がわかりやすくなっていることに気付かせ、図や写真を用いて文章に説得力をもたせて説明する力を育みたい。

【手立てについて】

第1次では、「5年生に社会科などで学んだ日本の文化を伝えるパンフレットを作る」ことを示す。そのうえで、表現技法の重要性を理解が足りない実態を鑑み、そのことを児童が自ら認識し、課題意識をもつために、自分の好きなものについて説明文を書き、それをよりよくするために教材文を読むという学習の見通しをもたせたい。

第2次では、教材文を「読むこと」を通して筆者の工夫に目を向け理解させたい。そのために、挿絵間違い探しやセンテンスカードを用いたりダウト読みを行ったりする。センテンスカードとは、形式段落中の一部が書かれているカードである。児童の手元に用意したり、拡大して黒板に貼ったりすることで、段落を並び変えることができ、思考の共有ツールとしての効果がねらえる。加えて今回は、挿絵と対応させることで筆者が挿絵に注目させる言葉を用いていることに気付くことができるだろう。挿絵間違い探しは、兎や蛙の一部を変えて提示する資料である。間違いの根拠を指摘するためには、文中から言葉を抜き出す必要があり、挿絵に対する筆者の着目点や評価を読み取る一助になると考える。ダウト読みとは、文中の言葉に間違いを仕込み、違和感に気付かせることができる。そのため、着目させたい言葉を変換して提示することが重要である。また、なぜ間違った表現ではいけないのかなど正誤を比較することで、筆者の表現の効果について考えられるようにするねらいがある。

そして第3次では、第2次で学んだ工夫を生かして、実際にパンフレットを作る活動を行う。パンフレットは、大きなカテゴリー（例えば、衣、食、住や城、芸能、行事など）で別れたグループにおいて1人1ページの作成を目指す。そうすることで、自分の選んだテーマについて、割り付けや資料の数を自由に決めることができ、資料と文章を対応させやすくなると考える。グループで活動するのは、お互いに見合っ

欲が向上するだけでなく、読み手の視点を取り入れることができ、児童が自分の考えを広げるきっかけにもなるだろう。そして、毎時間終了5分前を「推敲タイム」とする。この時間は感想を述べあったり、2次で学んだことが生かしているかを相互確認したりする時間とし、よりよいパンフレット完成を目指すことで学びを深められるようにしたい。

(4) 単元を支える言語活動

①作家の時間

前述のとおり書くことを苦手としている児童が多く、表現の工夫を考えるのが難しいと考えているという実態がある。また、「この文章なら書けるとい文章はありますか。」という質問調査に対し、日記文と答えた児童が多く、意見文や報告文、創作文など既習の文章を書けないと思っているという実態があった。これは、書く機会が少なく、定着が図れていないのだと予想できる。

そこで、書くことの楽しさを感じることに、また、読書活動や友人の作文などから多様な表現に触れることに、そして、文種の違いとそれぞれの文の書き方や特徴を理解することを目的として、「作家の時間」と称し、文章を書く時間を設ける。作家の時間とは1時間の中で、冒頭の5分でミニレクソンを行う。ここで主述の関係や段落の構成など書くことの基本的な学習や、意見文や報告文、生活文や感想文の特徴を学ぶ。学んだことは「作家の時間振り返り表」にメモし、自分の作文に生かせるようにする。その後35分は自分でテーマを決定し、自由に書く時間を設ける。その中で、机間指導をし、カンファレンスとしてこちらからアドバイスをしたり、書けない児童には好きな本などをアレンジして書く翻作を提案したりする。そして最後の5分で「推敲タイム」をとり、友達同士で見合って感想を伝えたり、アドバイスをしたりする時間とする。

基本的に、作家の時間は児童が書きたいというものを書く時間であるが、年間指導計画の時数を鑑み、指導者からテーマを与えることも行い、それぞれの単元で行う「書くこと」をこの時間に充てられるようにする。また、選んだ本の作者の表現の工夫についての感想文を書かせたり、写真や絵の様子をわかりやすく伝える説明文を書かせたりするなどして、本単元との関連性をもたせ、パンフレットを作成する一助としたい。

②短文チャレンジ

本校の取り組みとして、毎週木曜日の朝学習において「短文チャレンジ」を実施している。これは、俳句、川柳、短歌、またはアナグラムやあいいうえお作文、短作文などの言語活動を通して書くことの楽しさを感じさせるねらいがある。実際に本学級の児童は取り組み6年目であり、ノートなどを書く際に始めから鉛筆が止まっている児童が減っていると感じられる。また、語彙力を増やすことをねらい、書きっぱなしにするのではなく、お互いに見合い、評価し合う取り組みも行っている。

本単元においては、学習指導要領の「知識及び技能」の中の「オ 思考にかかわる語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと」を受けて、テーマについて2つを比べてよさを述べたり、「考える」「だろう」を使って考えを示す短作文を書いたり、『鳥獣戯画』を読む』の中で登場する評価にかかわる言葉をキーワードとして提示して、川柳を書いたりし、児童の語彙と語感を豊かにして学習に取り組ませたい。

③並行読書

本単元の第3次では、児童がそれぞれの興味にあった日本の文化についてまとめるパンフレットを作成する。その際、テーマや、紹介するための情報を見つけやすくしたりするために、並行読書を行わせ

る。本校は週3回（月、水、金）の朝学習において読書の時間を設けている。この学習の期間に特設コーナーを設け、日本の文化に関する本を図書室や中央図書館から借りて収納し、児童が手に取りやすくする。また、第3次でパンフレットを作成する際には、それらの本を参考にすることで必要な情報を収集できるようにしておく。

5 指導計画（全11時間）

次	時間	学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
1	1	①『鳥獣戯画』を読む」を読む前に、教材文の中で使われている挿絵を見、その場面を解説する文章を書く ②単元の学習計画を作成する。	○「5年生に見てもらおう」ためのパンフレットを作るということを理解させた上で解説文を書かせ、自分の課題を見つけたり、どこを改善したらよいかの疑問をもったりすることで課題意識をもたせられるようにする。 ○何を学ぶかを児童が気付き、読むための視点を得られるようにする。 ◆学習の見通しをもって学習しようとしている (主体的に学習に取り組む態度)
	2	③教材文を読んで内容の大体をとらえるとともに、意味調べを行う。	○写し絵、幻灯芝居など、言葉調べだけでは情報がないような文中の語句については、適宜ギガタブを使って調べさせる。 ◆教材文を理解するために進んで文中の語句について調べている。(主体的に学習に取り組む態度)
2	3 4 (本時)	④作者の「絵」に対する評価を読み取る。 ⑤作者の「絵巻物」に対する評価を読み取る。 ⑥注目すべき言葉を理解し、児童相互で理解を深めるために、「ダウトづくり」を行う。	○挿絵を用いた間違い探しを行い、それをもとに文中の言葉を探させることで全員が絵に対する筆者の評価を読み取ることができるようにする。 ○挿絵の並び替えで、筆者の絵巻物に対する評価を実感しながら読み取ることができるようにする。 ○センテンスカードによるダウトを行うことで筆者の評価を表す言葉に気づくことができるようにする。 ◆作者の「評価」を本文から読み取っている。 (思考・判断・表現)
	5 6	⑦作者の「表現技法の工夫」を読み取る。 ⑧作者の「文末表現の工夫」を読み取る。 ⑨作者の「資料活用の工夫」を読み取る。	○表現の工夫に着目できるように、センテンスカードによるダウト読みを行い、表現の効果を考えさせる。 ○センテンスカードと挿絵を用いて並び替えさせることで、資料に注目させながら説明する工夫に気付くことができるようにする。 ◆筆者の表現の工夫を読み取り、その効果に気付いている。(思考・判断・表現)
	7	⑩これまで読み取った作者の工夫と、初めに書いた自分の解説文を比べ、「表現の工夫」をまとめる。	○筆者の工夫を生かして、初めの解説文の推敲をすることで、学んだことを生かして書けるようにする ◆学び得たことを、自分の解説文に生かしている。 (思考・判断・表現)

3	8 9 10	⑪教科書を読み、グループごとにパンフレットのテーマや構成などを話し合う。 ⑫本やインターネット、教科書を用いてテーマに沿って調べ、パンフレットを作成する。	○毎時間の終了前5分は、「推敲タイム」とし、それぞれの書いている部分の表現が、2次で学んだことを生かしているか全員で確認し合えるようにする。 ◆2次で学んだことを生かしてパンフレットを作成している。(思考力・判断力・表現力) ◆本が考えを広げることに気付いている。(知識・理解)
	11	⑬作成したパンフレットを全員で見合い、良いところを探す。 ⑭学習の振り返りをし、学んだことをまとめる。	○見合う際に、「表現技法の工夫」、「文末表現の工夫」、「資料活用の工夫」の視点を意識するようにする。 ○できるようになったことを中心に振り返らせる。 ◆学習したことを自分の言葉で振り返り、知識としている。(知識・理解)

6 本時の目標と展開 (11 時間中の 4 時間目)

①本時の目標

○作者の評価が書き表されている箇所を読み取り、その効果に気付いている。

(思考力・判断力・表現力等 C(1)ウ)

②本時で目指す子どもの姿

A	B	C
評価が表れている箇所を読み取り、その効果に気付いた上で、根拠をもって自分でダウトの問題作りをしている。	評価が表れている箇所を読み取り、友達が作成したダウトをもとにその効果に気づいている。	評価が表れている箇所に気づけなかったり、その効果を考えられなかったりしている。

③本時の展開

時配	学習活動 ・ 予想される児童の反応	○指導や支援の手立て ◇評価(評価方法)	教材・教具
2	①前時の学習の振り返りをし、本時の学習の見通しをもつ。	○単元の計画表や掲示物を指し示しながら振り返りを行うことで、既習事項を確認できるようにする。	・ 単元計画表
5	②センテンスカードを1枚提示する。センテンスカードにはダウトを入れる。	○カード内の言葉の違いに気づき、「評価」について知ることで、本時の学習で考えるべきことにおおまかな見通しをもてるようにする。	センテンスカード ワークシート
評価に注目して読もう。			
7	③指導者が用意したセンテンスカードからダウトを見つける。	○間違いを提示することで、正しいものと比較し、正解の表現の理由を考えられるようにする。	

8	<p>④センテンスカードを直し、それらの言葉に共通することを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こんなに楽しく」という言葉があることは筆者が思ったことだな。 ・「上手な」は、だれが決めたのだろう。筆者かな。 	<p>○ダウトで抜き出す言葉を「評価」に関するものに限定したり、だれがそう感じているのかを児童に問いかけたりして、筆者自身を感じたことが多く入れられていることに気付けるようにする。</p>	
7	<p>⑤「評価」の効果を考える。早く考えがまとまったら、友達に出す問題を本時の範囲以前の段落から作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作者の評価のことが入っているのはわかったけど、その効果はまだ考えられないな。 ・評価があることで筆者がどこに着目させたいかがわかるぞ。前にもあったな。そこで問題を作れば友達も気付くかな。 	<p>○問題はできた児童からグループ内で発表させる。そうすることで、まだ考えが及んでいない児童も参考にできるようにする。</p> <p>○問題を解き終わったら、正誤を比較し、あることによってどんな効果があるのかをグループで考えられるようにする。</p>	
8	<p>⑥⑤で問題を作成できた児童の問題を全体で共有し、全体で評価があることの効果を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「たいしたものだ」という言葉がないと、鳥獣戯画の筆さばきに気付きづらいかな。 ・「実にすばらしい」という言葉で筆者の考えがわかるよ。評価を入れることで共感しやすくなるな。 	<p>○机間指導であらかじめ発表児童を探しておく。考えるのに効果的な問題がない場合は教師が作成したものを提示し、全体で考える。</p> <p>○比較して得た考えを全体で共有することで、問題が作れなかった児童も「評価」があることの効果に気付けるようにする。</p>	<p>・実物投影機 もしくは ギガタブ</p>
5	<p>⑥気付いた工夫をまとめる。</p>	<p>◇作者の評価が書き表されている箇所を読み取り、その効果に気付いている。(思考・判断・表現 C(1)ウ)</p>	
<p>筆者は、『鳥獣戯画』のよいところを読み手に共感させたり、どこに注目すればよいかをより分かりやすくするために「評価」を多く入れている。</p>			
3	<p>⑦まとめを共有し、「作家の時間振り返り表」にメモをする。</p>	<p>○振り返り表にメモを残すことで、第3次のパンフレット作りの際に、一目で見ても確認できるようにする。</p>	

7 参考文献

○『増補版 作家の時間「書く」ことが好きになる教え方・学び方【実践編】』

プロジェクトワークショップ 編

○『教材に「しかけ」をつくる国語授業10の方法』 桂聖編著

授業のユニバーサルデザイン研究会沖縄支部 著

○『どの子も必ず書けるようになる「書くこと」の授業づくり』

長谷川祥子編著 小川智勢子 西山悦子著

神無月 日 曜日

日直

『鳥獣戯画』を読む

高畑 勲

評価に注目して読もう。

とびきりモダンな絵巻物が生み出されたとは、なんとすごいことだろう。

○すてきでおどろくべきこと

この時代には、ほかにも絵巻がいくつも制作され、絵と言葉で長い物語を語っている。

○とびきりすぐれた絵巻
上手な絵と言葉
実に生き生きと

『鳥獣戯画』は、だから、国宝であるだけでなく、人類のものなのだ。

○人類の宝

誰が思っている？

筆者（高畑勲さん）

昔にはない技術・表現

鳥獣戯画のような

漫画やアニメのような
流れがある

筆さばき 吹き出しの

ような線

目と口の動き

すばらしく貴重なもの

評価

筆者が見たいところ
優れたところ
注目させたいところ

←
共感してもらいたいところ
読み手に伝えたいこと



筆者は、『鳥獣戯画』のよいところを読み手に共感させたり、どこに注目すればよいかをより分かりやすくするために「評価」を多く入れている。